

3-4. 報告書作成変更

- ・ 3-1 でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。
- ・ 分析結果報告書メニューには、入力状態とチャート状態が表示されています。

報告書一覧表				
	名称	入力状態	チャート送付	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]水質試料1(カドミウム)	入力中		
<input checked="" type="radio"/>	報告書[2]水質試料1(鉛)	確定		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[3]水質試料1(砒素)	入力中		
<input type="radio"/>	報告書[4]水質資料1(亜鉛)	入力中		
<input type="radio"/>	報告書[5]水質試料2(ノニルフェノール及び4-tert-オクチルフェノール)	確定		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[6]水質試料2(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩)	入力中		
<input type="radio"/>	報告書[7]底質試料(有機塩素化合物)	入力中		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[8]底質試料(砒素)	入力中		
	調査に関するアンケート	入力中		

図 3-4.1 分析結果報告書メニュー画面 報告書一覧

入力状態について

- 「未入力」 : まだ入力が行われていない状態です。
- 「入力中」 : 入力が途中まで行われている状態 (一時保存されている状態) です。
- 「確定」 : 入力が確定した状態 (変更できない状態) です。

チャート状態について

- 「無し」 : チャート類のファイルが送付されていない状態です。
 - 「送付済」 : チャート類のファイルが送付されている状態です。
- チャートの送付については、「3-7. チャート類の送付と確認」を参照して下さい。

- ・ 分析結果報告書メニューから入力しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書作成変更」をクリックすると別画面にて「報告書作成変更画面」が表示されます。

環境測定分析統一精度管理調査システム - Microsoft Internet Explorer

一時保存 前ページ 次ページ 1 / 2 ダイレクトジャンプ

報告書1のページを一時保存しました。

分析結果報告書[1] 1/3

1.1 水質試料1(カドミウム)

電話番号	<input type="text"/>
分析主担当者名	<input type="text"/>
分析主担当者の経験年数	<input type="text"/> 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	<input type="text"/>
分析(主)担当者以外の分析結果の 確認	-未選択-

<分析結果>

回数	分析結果(mg/L) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>

注1) 実施要領5の希釈方法に従って共通試料2を水で10倍希釈して調製した分析用試料中の濃度(mg/L)を記入する。
記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。
「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>

分析開始月日	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
分析終了月日	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
分析方法	-未選択- その他(<input type="text"/>)
使用した水	-未選択- その他(<input type="text"/>)

<前処理>

試料量	<input type="text"/> mL
準備操作(前処理)	-未選択- その他(<input type="text"/>)
前処理後の溶液(定容量) 注4)	<input type="text"/> mL

注4) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

<溶媒抽出等>

準備操作(溶媒抽出等)	-未選択- その他(<input type="text"/>)
-------------	-----------------------------------

図 3-4.2 分析結果報告書作成変更画面

・入力方法は、「2. 記入方法」に従って下さい。また、各分析結果報告書の共通事項を記します。

表 3-4.1 各分析結果報告書の共通事項

<p>分析主担当者</p>	<p>全角入力。実際にその項目の分析を手がけた人の氏名（複数で分析を行った場合は主として実施した人の氏名とする）。</p>
<p>分析主担当者の経験年数</p>	<p>数値（半角）入力。該当項目の記入時点での分析業務経験年数を整数（四捨五入による）で記入する。</p>
<p>分析主担当者の実績 （年間の分析試料数）</p>	<p>数値（半角）入力。分析主担当者が昨年度1年間に分析を行った環境試料の該当項目のおよその試料数を記入する。</p>
<p>分析（主）担当者以外の分析結果の確認</p>	<p>分析結果報告書の作成にあたって、分析（主）担当者以外の分析結果確認の有無を記入する。</p>

- ・各分析結果報告書の入力項目の詳細は、「4. 各報告書の詳細」を参照して下さい。

・操作ボタンについて

「一時保存」：現在入力中のページを一時保存します。

「前ページ」：前ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、前ページに移動します。

「次ページ」：次ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」：現在入力中のページを一時保存し、指定したページ番号に移動します。

上記の操作を行うと、操作ボタンの下のメッセージエリアにアナウンスが表示されます。

・入力操作が終わりましたら、一時保存を行った後に、ブラウザ右上の「×：閉じる」ボタンをクリックし入力画面を閉じます。



図 3-4.3 分析結果報告書作成変更画面 閉じる

・分析結果報告書メニュー画面の報告書一覧の入力状態が「入力中」と表示されます。

※ 入力の途中であったり、後で追加記入や修正を行う場合には、「一時保存」をすることができます。「一時保存」することによりデータベースに入力データが保存され、次回入力画面を開いた時には自動的にそのデータが読み込まれます。これにより、複数日にわたっての記入が可能です。「前ページ」「次ページ」「ダイレクトジャンプ」ボタンでページを移動するときには入力したデータが自動的に一時保存されますが、入力画面を閉じる際やコンピュータをシャットダウンする際などには自動的に一時保存はされません。また、入力画面を開いたまま、一時保存、前ページ、次ページ、ダイレクトジャンプ、ユーザ情報変更、パスワード変更など、サーバからデータを読み込むあるいは書き込む操作をせず 24 時間経過しますとサーバとの接続が切断され、自動的にログアウトされます。一時保存は入力中いつでも行えますので、ある程度データを入力なさった段階で、一時保存を行うようにして下さい。

※ 提出期限を過ぎると入力できなくなります。

※ 参加者専用ページへのログインは、1つの分析機関に対して複数人のログインが可能です。その際は一番最後に保存した人のデータが優先されて保存されますので注意して下さい。(例えば、〇〇〇機関に対して、3台の PC で A さん、B さん、C さんの 3 人の方が同じ時間帯にログインして報告書の入力作業が行えます。A さん、B さん、C さんの順番で保存処理を行った場合は C さんの入力内容が優先されて保存されます。)

3-5. 報告書確認表示

・3-1でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。(図 3-4.1 参照して下さい。)

・分析結果報告書メニューから表示しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書確認表示」をクリックすると別画面にて「報告書確認表示画面」が表示されます。

統一精度管理調査システム - Microsoft Internet Explorer

次ページ 1 / 2 ダイレクトジャンプ

分析結果報告書[1] 1/3

1.1 水質試料1(カドミウム)

電話番号		
分析担当者名		
分析担当者の経験年数	() 年	
分析担当者の実績 (年間の分析試料数)		
分析(主)担当者以外の分析結果の確認		

< 分析結果 >

回数	分析結果 (mg/L) 注1)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 実施要領5の希釈方法に従って共通試料2を水で10倍希釈して調製した分析用試料中の濃度(mg/L)を記入する。
記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。
「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

< 分析方法等 >

分析開始月日	() 月 () 日
分析終了月日	() 月 () 日
分析方法	
使用した水	

< 前処理 >

試料量	() mL
準備操作(前処理)	
前処理後の溶液(定容量) 注4)	() mL

注4) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

< 溶媒抽出等 >

準備操作(溶媒抽出等)	
前処理後の溶液の分取量 注5)	() mL
(溶媒抽出)	
溶媒の種類	
キレートの種類	
抽出回数	() 回
溶媒の使用量	() mL/回
(イオン交換樹脂カラム)	
種類	
(キレート樹脂を用いた固相抽出)	
樹脂	
種類1	
種類2	
メーカー	
型式	
試料液のpH調節	pH ()
試料液の流下	
方法	
流速	() mL/分
溶出	
種類	
濃度	() mol/L
量	() mL/回
回数	() 回
最終の定容量	() mL
最終溶液(試験溶液)の液性	

注5) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

図 3-5.1 分析結果報告書確認表示画面

- 操作ボタンについて

「前ページ」：前ページがある場合、前ページに移動します。

「次ページ」：次ページがある場合、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」：指定したページ番号に移動します。

• 各分析結果報告書の内容の確認が終了したら、ブラウザ右上の「×：閉じる」ボタンをクリックして、分析結果報告書メニューへ戻ります。

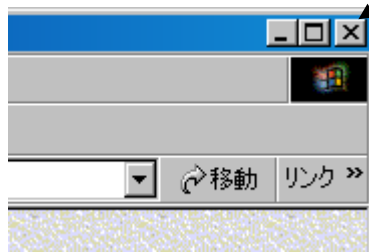


図 3-5.2 分析結果報告書確認表示画面 閉じる

- 印刷について

各種分析結果報告書の印刷は、ブラウザの基本機能で実現されます。方法は、「3-6. 報告書の印刷」を参照して下さい。